

- 問1 室町時代の出来事を記した年表において、1428年に発生した「正長の土一揆」は、日本で最初の組織的な土一揆として知られています。この一揆において近江国の運送業者である馬借が果たした役割や背景として、最も適切な説明はどれか選びなさい。 (2020年 静岡県公立入試 類似)
- 馬借は各地の情報を素早く伝達し、広い範囲の農民が団結して徳政を求めるきっかけを作った。
 - 馬借は京都の自治を担う町衆と協力し、室町幕府の将軍を追放して新しい政府を樹立した。
 - 馬借は幕府から独占販売権を得ていた座の一員であり、特権を守るために農民を武力で鎮圧した。
 - 馬借は惣と呼ばれる農民の組織から独立した存在であり、年貢の減免を求めて各地の守護大名と戦った。
- 問2 室町時代、日本海側の地域から運ばれてきた物資は、琵琶湖を船で渡り、大津や坂本といった湖岸の拠点に集められました。そこから京都などの消費地へ、馬に荷物を載せて陸路で運搬した運送業者の名称として、正しいものはどれですか。 (2024年 石川県公立入試 類似)
- 蔵屋敷
 - 座
 - 馬借
 - 問丸
- 問3 応仁の乱が発生した時期の社会背景や、その後の歴史への影響について述べた文として、最も適切なものを選びなさい。 (2017年 奈良県公立入試 類似)
- この戦乱をきっかけに、源頼朝が鎌倉に幕府を開き武家政治を開始した。
 - 将軍の権威が衰え、実力のある者が上位の者を打ち倒す下剋上の風潮が広まった。
 - 元(モンゴル帝国)の侵攻を退けたものの、恩賞の不足から幕府への不満が高まった。
 - 織田信長が足利義昭を追放したことで、室町幕府が滅亡する直接の原因となった。
- 問4 室町時代、足利義満が明との間で始めた貿易では、当時「倭寇」と呼ばれた海賊による私貿易船と、幕府が認めた正式な貿易船を区別する必要がありました。このとき、二枚に分割された合札を照合することで、正式な船であることを証明した道具を何といいますか。 (2017年 大阪府公立入試 類似)
- 割印
 - 勘合(勘合符)
 - 手形
 - 朱印状
- 問5 15世紀から16世紀前半にかけて、琉球王国がアジアの各地域を結んで行った貿易について述べた文として、最も適切なものを選択してください。 (2016年 佐賀県公立入試 類似)
- ポルトガルやスペインの船と、銀を輸出する代わりに鉄砲やキリスト教を導入する南蛮貿易を主導した。
 - 明との間で勘合(合札)を用いて、倭寇と正規の貿易船を区別しながら、日本国内の特産品を輸出した。
 - 明への朝貢貿易を通じて得た生糸や陶磁器などを、日本や朝鮮、東南アジア諸国に転売する中継貿易で利益を上げた。
 - 幕府から発行された朱印状を携え、東南アジア各地に日本町を建設して大規模な貿易活動を展開した。
- 問6 日本における仏教の広まりと政治・社会の動きについて述べた文として、正しいものはどれですか。 (2017年 富山県公立入試 類似)
- 飛鳥時代に最澄や空海が仏教を体系化し、鎌倉時代には遣隋使の影響で禅宗が広まり、室町時代には浄土真宗の僧侶たちが幕府の命で一向一揆を組織した。
 - 平安時代に法隆寺が建立されたのち、鎌倉時代には遣隋使によって天台宗・真言宗がもたらされ、室町時代に禅宗を信じる人々が一向一揆を起こした。
 - 飛鳥時代に遣隋使の派遣や法隆寺の建立が行われ、平安時代には最澄や空海が天台宗・真言宗を伝え、鎌倉時代には宋西や道元により禅宗が広まった。
 - 聖徳太子が遣隋使を派遣した飛鳥時代に禅宗が伝わり、平安時代には宋西や道元が新しい教えを広め、室町時代に最澄や空海による一向一揆が起きた。
- 問7 琉球王国の都であった首里には、中国と日本の建築様式が融合した独特な城が築かれました。この王国が東アジアの各地と行った「中継貿易」の具体的な仕組みを説明したものとして、最も適切なものはどれか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
- 中国から輸入した生糸や絹織物を日本や東南アジアへ運び、各地の特産品をさらに別の国へ転売する。
 - 明(中国)への朝貢形式をとりながら、幕府が発行した朱印状を持つ船だけが海外へ渡航する。
 - キリスト教の布教を認める代わりに、軍事力強化につながる鉄砲や火薬をヨーロッパ諸国から輸入する。
 - 特定の証明書を用いて正式な貿易船と倭寇を区別し、主に日本と明の二国間のみで物品を交換する。
- 問8 室町時代に農村で形成された自治組織である「惣」の活動内容や当時の社会背景について説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2020年 秋田県公立入試 類似)
- 領主が支配を強めるために有力な農民を村役人に任命し、年貢の取り立てや裁判のすべてを幕府の代わりに行わせた。
 - 朝廷や幕府の公認を得て、特権的な販売独占権を持つ商工業者の集団として、市場での自由な取引を制限した。
 - 農業生産力の向上を背景に、農民たちが寄り合いを開いて村の掟を定め、水利の管理や入会地の共同利用を自主的に行った。
 - 江戸幕府の命令により、キリスト教の禁止や年貢の納入を徹底させるため、近隣の数軒を一つの単位として連帯責任を負わせた。
- 問9 日本の歴史における代表的な寺院とその建立に関わった人物や時代について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2023年 東京都公立入試 類似)
- 室町時代に、聖徳太子が大陸の文化を取り入れた法隆寺を建立した。
 - 平安時代に、聖武天皇が東北地方の支配の拠点として中尊寺金色堂を建立した。
 - 飛鳥時代に、足利義満が公家文化と武家文化を融合させた金閣を建立した。
 - 奈良時代に、聖武天皇が仏教の力で国を守るために東大寺を建立した。
- 問10 日本の歴史における文化作品とその時代背景について述べた次の説明のうち、室町時代の東山文化に該当するものはどれですか。 (2017年 沖縄県公立入試 類似)
- 狩野永徳によって描かれた、金箔を多用し力強い筆致が特徴の唐獅子図屏風
 - 龍安寺にある、水を用いず石と砂のみで自然の風景を表現した石庭
 - 尾形光琳によって描かれた、徳川綱吉の時代の華やかさを象徴する風神雷神図屏風
 - 出雲の阿国が京都で始めたとされる、後の歌舞伎の原型となった芸能
- 問11 室町時代、農業生産力の向上や民衆の成長を背景として、農民たちが自律的に「村の政治」を行う組織が各地で形成されました。この組織が行った自治活動について、最も適切な説明を選んでください。 (2023年 秋田県公立入試 類似)
- 江戸幕府から営業の独占を認められた「株仲間」として、新規参入を防ぎながら商品の流通を支配した。
 - 「寄合」という会議を開いて村の運営を話し合い、「掟」と呼ばれる独自のルールを定めて村の秩序を維持した。
 - 有力な武士の指導のもとで、灌漑施設の管理や年貢の取りまとめをすべて領主の命令通りに実行した。
 - 公家や寺社に税を納める見返りとして、商品の独占販売権を持つ「座」という組合を結成し、商業の発展に寄与した。
- 問12 十四世紀から十五世紀にかけての芸能の発展について説明した資料において、猿楽から「能」を完成させた世阿弥の活動の背景として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 大阪府公立入試 類似)
- 墨の濃淡のみで自然を描く水墨画の技法を学び、それを舞台の背景画に応用した。
 - 庶民の生活をリアルに描くために、それまでの伝統を排して新しい笑いの芸能を確立した。
 - 足利義満という強力な権力者の保護を受け、猿楽を芸術性の高い演劇へと昇華させた。
 - 唐や宋の文化を直接取り入れるため、遣唐使として大陸へ渡り最新の舞台技術を持ち帰った。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 馬借は各地の情報を素早く伝達し、広い範囲の農民が団結して徳政を求めるきっかけを作った。	1428年の正長の土一揆は、近江国の馬借が徳政（借金の帳消し）を求めて蜂起したことが始まりです。馬借は日常的に広い範囲を移動して物資を運んでいたため、各地の情報を素早く伝えるネットワークを持っていました。このネットワークが活用されたことで、近江から大和（奈良県）や京都へと一揆が波及し、室町幕府に対して徳政令の発布を迫る大規模な運動へと発展しました。
問2	答え 3 馬借	琵琶湖周辺の大津や坂本は、湖を利用した水運と、京都へ向かう陸運の接点（中継地）として機能していました。この陸上輸送を担ったのが馬に荷物を載せて運ぶ馬借であり、彼らは高い輸送力を背景に、後に徳政令を求める土一揆（馬借一揆）の中心勢力にもなりました。問丸は港などで物資の保管や委託販売を行う業者、蔵屋敷は江戸時代に諸藩が大阪などに置いた倉庫、座は商工業者の同業者組合を指します。
問3	答え 2 将軍の権威が衰え、実力のある者が上位の者を打ち倒す下剋上の風潮が広まった。	応仁の乱の結果、室町幕府の統制力は失われ、守護大名の領国内でも家臣が実権を握るなど社会秩序が大きく変化しました。自らの実力で領地を支配する戦国大名が登場するようになり、日本は100年以上にわたる戦国時代へと突入しました。なお、この時期には足利義政による東山文化が栄え、銀閣（慈照寺）に代表されるような、書院造など現代の和風建築の源流となる文化が育まれています。
問4	答え 2 勘合（勘合符）	足利義満は明の皇帝からの要求を受け、倭寇を鎮めることを条件に日明貿易を開始しました。この貿易では、あらかじめ日本側と明側で半分に分けた「勘合」という紙を所持し、港でそれらを突き合わせて一致するかを確認する仕組みが導入されました。これにより、幕府の許可を得ていない倭寇による密貿易を排除しました。
問5	答え 3 明への朝貢貿易を通じて得た生糸や陶磁器などを、日本や朝鮮、東南アジア諸国に転売する中継貿易で利益を上げた。	15世紀の琉球王国は、明との間で頻繁に「朝貢貿易」を行っていました。当時の記録によると、琉球から明への朝貢回数は170回を超えており、これは安南やシャム（タイ）、日本といった周辺諸国と比較しても圧倒的に多い頻度でした。琉球はこの良好な関係を利用して、明から入手した生糸や絹織物、陶磁器といった高級品を、日本や朝鮮、さらにはシャムやチャンパーといった東南アジアの国々に転売する「中継貿易」を行い、莫大な富を築きました。選択肢にある「南蛮貿易」や「朱印船貿易」は後の時代の出来事であり、勘合貿易は主に室町幕府が行った形式です。
問6	答え 3 飛鳥時代に遣隋使の派遣や法隆寺の建立が行われ、平安時代には最澄や空海が天台宗・真言宗を伝え、鎌倉時代には栄西や道元により禅宗が広まった。	日本の仏教は時代ごとに異なる展開を見せました。飛鳥時代には聖徳太子らにより遣隋使が派遣され、法隆寺などの寺院が建立されて国家的な保護を受けました。平安時代に入ると、最澄が天台宗、空海が真言宗を伝え、山中での修行を重視する新しい仏教が成立します。鎌倉時代には、栄西や道元によって座禅を重視する禅宗が伝えられ、武士の間で広く受け入れられました。室町時代に起きる一向一揆は浄土真宗（一向宗）によるもので、禅宗とは別の動きです。
問7	答え 1 中国から輸入した生糸や絹織物を日本や東南アジアへ運び、各地の特産品をさらに別の国へ転売する。	琉球王国の中継貿易は、自国の産物だけでなく、中国（明）から得た高度な技術による製品や、東南アジアから得た香料・胡椒などを、日本や朝鮮、東南アジア諸国に転売することで利益を上げる仕組みでした。これにより、琉球は東アジアの海上交通の要所として大きな役割を果たしました。他の選択肢は、朱印船貿易、勘合貿易、南蛮貿易の説明です。
問8	答え 3 農業生産力の向上を背景に、農民たちが寄り合いを開いて村の掟を定め、水利の管理や入会地の共同利用を自主的に行った。	室町時代の農村では、灌漑施設の管理や山野（入会地）の利用、さらには村の防衛などを自分たちで行う必要が生じました。これらを運営するために結成されたのが惣です。惣の団結力が強まると、領主に対して年貢の減免を要求したり、借金の帳消しを求める「土一揆」へと発展することもありました。
問9	答え 4 奈良時代に、聖武天皇が仏教の力で国を守るために東大寺を建立した。	奈良時代の聖武天皇は、仏教の力で国家の安定を図る「鎮護国家」の思想に基づき、全国に国分寺・国分尼寺を建立しました。その中心となる総国分寺として、奈良の都に東大寺と大仏を造立しました。飛鳥時代の聖徳太子による法隆寺、平安時代の奥州藤原氏による中尊寺金色堂、室町時代の足利義満による金閣（鹿苑寺）など、それぞれの建築物は建立された時代の政治的・文化的背景を象徴しています。
問10	答え 2 龍安寺にある、水を用いず石と砂のみで自然の風景を表現した石庭	龍安寺の石庭は室町時代の東山文化を代表する作品です。他の選択肢について、唐獅子図屏風や阿国歌舞伎は織田信長や豊臣秀吉が活躍した安土桃山文化の特色であり、尾形光琳の作品は江戸時代の元禄文化に属します。時代ごとの担い手や好みの違いを区別することが重要です。
問11	答え 2 「寄合」という会議を開いて村の運営を話し合い、「掟」と呼ばれる独自のルールを定めて村の秩序を維持した。	室町時代になると、農民たちは「惣村」と呼ばれる自治組織を形成しました。惣村では、村民による会議である「寄合」が開かれ、村独自の決まりである「掟（惣掟）」が定められました。これにより、山林（入会地）の管理や祭礼の運営、さらには警察権の一部を行使するなど、領主から自立した村の政治が行われるようになりました。選択肢にある「座」は中世の商工業者の団体、「株仲間」は江戸時代の商人の団体を指すため、惣村の活動とは異なります。
問12	答え 3 足利義満という強力な権力者の保護を受け、猿楽を芸術性の高い演劇へと昇華させた。	世阿弥が能を大成できた背景には、足利義満という最高権力者の patronage（経済的・社会的支援）がありました。それまでの猿楽は農村の祭礼などで行われる庶民的な見世物でしたが、義満の好みに合わせて洗練された歌舞や物語性を加えることで、武家社会にふさわしい格調高い舞台芸術へと進化しました。なお、世阿弥の時代に遣唐使は派遣されておらず、水墨画の確立は雪舟によるものです。